

校内研究（現職教育計画）

1. 職員研修計画

自らの使命を自覚し教師一人一人が研究に励み、自らの指導力・資質向上を図るための研修を推進する。

（1）校内研究の推進

研究主題追求構想に基づき、低中高学年の発達段階における実践研究を進める。

（2）校内研修

- ・年間計画に基づき、学級経営、教科指導、特活の指導、総合的な学習、生徒指導の方法について協議しながら研修を行う。
- ・学習指導、特別支援教育、児童理解、情報機器活用といった内容を中心に、必要に応じて外部講師を招いて研修を行う。

（3）校外研修

郡市教育課程研修会、学年会、町教育研究会、先進校視察、研究発表会、県教員総合研修センター研修講座等に参加する。その成果と課題等については、適時、報告する。

2. 本年度の研究の概要

（1）研究主題・副題

「楽しく学び合う子」
～根拠・理由を明確にしながら深め合う姿をめざして～

【研究主題・副題設定の理由】

本校では、昨年度まで「喜びをもって学ぶ子」を研究主題として、主体的に学習に取り組み、考えようとする児童の育成をめざして研究に取り組んできた。「喜びをもって学ぶ子」とは、「わかってよかった」「できるようになって楽しかった」と達成感を味わう児童の姿と「友達と共に考えることが楽しい」と感じる児童の姿であると捉えている。本年度は、この「喜び」をさらに具現化するために、研究主題を「楽しく学び合う子」とし、教師も子どもも、学ぶ楽しさを実感しながら共通の意識をもって研究を進めていきたい。

また、昨年度、副題を「グループ活動を通して深まり、学び合う姿をめざして」とし、以下の2つの重点を手立てとした授業づくりに取り組んできた。

重点1 「主体的にグループ活動に取り組ませるための手立ての工夫」

重点2 「グループや個の考えを生かし、学びを深めるための手立ての工夫」

取組の成果として、重点1では、課題意識のもたせ方の工夫・話し合いの目的やゴールを明確にする工夫・話し合いの形態や取り入れるタイミングの工夫、重点2では、グループ活動後も学習意欲が持続する工夫・板書の工夫など、有効な手立てが明らかになった。

一方で、児童同士で確認をしたり、質問をしたりすることはまだまだ十分ではない。疑問に感じたことを出し合ったり、足りないところを補い合ったりする対話になっていないことが多かった。また、教師からの問い返しや深めの発問は、吟味が必要であり、教師の思いとは別に、難しいと感じる児童を増やしてしまうこともあった。深める活動では、思考をすっきりさせることが大切であり、考え・根拠・理由を教師が理解し、足りないところや浅いところを発問等で補っていくことで、さらなる質的向上を求めたいと考えている。

昨年度の成果・課題を踏まえ、今年度は、副題を「根拠・理由を明確にしながら深め合う姿をめざして」とし、言語活動の土台となる論理的な思考力・表現力を育成することで、学びの質的向上を子どもたち自身が実感し、「学びの真の楽しさ」に触れられるような授業実践を重ねていきたい。

(2) 研究仮説

研究主題「楽しく学び合う子」に迫るために、今年度は、以下のような仮説を立てて取り組んでいく。

仮説「根拠・理由を明確にしながら深め合うことで、学び合いの質が向上する」

自分の考えを他者に理解させ、納得してもらうためには、説明者自身が理解し、納得していなければいけない。しかも、相手を説得するためには、明確な証拠やデータを根拠として示し、自分なりの解釈（理由）を説明する必要がある。こうした論理的な話し合いが授業の中で展開されることで、初めは漠然としていた自分の考えがより明確になったり、気付いていなかったことに気付くことができたりする。この達成感の積み重ねにより「学ぶことは楽しいことである」と実感できると考える。

授業における「個の追究」の場面では、根拠や理由をもとに自分の考えをもたせる手立てを工夫する。漠然と思いや考えを話したり書いたりするのではなく、手がかりにしたものに線を引かせたり、端的に書き抜いたりさせたりすることで根拠を明確にしていく。また、そこから自分が解釈したことまで意識的に表現することで、その後の集団追究につなげていく。

「集団追究」の場面では、根拠・理由を明確にしながら深め合うための手立てを工夫していく。教師が根拠・理由を明確に把握し、子どもの発言を整理していくことで、思考をすっきりさせていく。また、子どもの発言に耳を傾け、根拠や理由の欠如に対して、意図的に「問い返しの発問」をするようにする。個への問い返しだけでなく、全体への問い返しをすることで友達の考えを聴く必要感を生み、共に深め合う雰囲気大切にしていく。

児童の思考を揺さぶり、本時のねらいへと導く「深めの発問」も意図的・計画的に行う。今まで積み上げてきた根拠や理由を、子どもたち自身が吟味し直し、整理し直すことで、学習の深まりを生み出すようにする。

(3) 研究の重点

重点1 根拠・理由をもとに自分の考えをもたせるための手立て（個の追究）

- ・ 学びに向かう目的意識を児童と共有し、見通しをもたせる工夫
- ・ 主体的な学びの原動力を生み出す導入の工夫
- ・ 思考のスタートをそろえる選択式の問い（ネームプレートを貼らせる等）
- ・ 手がかりにした根拠にサイドラインや印をつけるなどの工夫
- ・ 根拠や理由を明確にしやすいワークシート・ノートの工夫

重点2 根拠・理由を明確にしながら深め合うための手立て（集団追究）

- ・ 根拠や理由の欠如に対する「問い返しの発問」
- ・ 児童の思考を揺さぶり、本時のねらいへと導く「深めの発問」
- ・ 少人数対話の効果的活用（ペア・グループ活動）
- ・ 「深めるさんかく」を使用した板書の工夫
- ・ 相手意識をもった話し合い方法の工夫

(4) 研究方法

- ・根拠・理由を明確にしながらかみあう授業を実践する。
- ・研究授業を通して、検証を行う。
- ・1人1回以上研究授業を行う。(全体研究授業3回、それ以外はブロック研究授業)
- ・研究授業の事前研・整理会は各ブロックを中心に行う。
- ・事前研では、指導案検討を行い、全員で授業づくりを考える。
- ・研究授業の単元は、各学年が共通実践する。
- ・事前研・整理会は主題及び重点にそった協議をし、児童の変容をもとに授業改善に努める
- ・研究通信を発行し、研究授業の様子や整理会での協議内容を報告し、共通理解を図る。
- ・相互に授業を参観し合い、授業力向上に努める。
- ・OJTを計画的に実施し、授業力向上をめざす。(外部講師を招聘した研修会も行う)

(5) 検証方法

- ・学力・学習状況調査、基礎学力調査
- ・発言や行動の観察、補助簿での評価
- ・児童のノート等の記述
- ・週案を用いた自己評価(重点指導単元の取組達成度)
- ・学習アンケートによる児童の意識調査(7月、11月、2月)
- ・教師による児童の実態把握調査(7月、11月、2月)
- ・めざす児童の姿と児童の実態の分析(4月、7月、12月)

(6) 学びを支える基盤づくり

① 学びを支える8項目

- 気持ちのよいあいさつ
- 充実した朝学習
- さわやかな朝の歌
- 授業中の静かな教室移動
- 学年×10分の家庭学習
- 無言清掃
- 年間目標を掲げての読書
- 思い切り遊ぶ昼休み

- ・書く力の育成として、朝学習で条件作文に取り組む。
(火曜1・2週)
- ・思考力・判断力・表現力の育成として、朝学習で国語・算数の活用問題に取り組む。その時間のうちに解説まで行い、考え方を大切にする。(火曜3・4週)
- ・言語力育成のため、朝学習において、週1回朝読書の時間や月1回朝読書週間、読み聞かせの時間を設ける。また、月1回家庭読書の日を設ける。
- ・家庭学習の充実を図るために、各家庭に向けて「家庭学習の手引き」を発行し、時間や内容について家庭と連携しながら取り組む。

② 学力・学習状況調査、基礎学力調査の活用

学力調査の結果を分析し、指導の重点を設けて授業に生かす。

③ 学習目標

学習規律の意識づけと定着に向けて、学習に関する約束をもとに毎学期の学習目標を掲げ、全校共通した指導を行う。

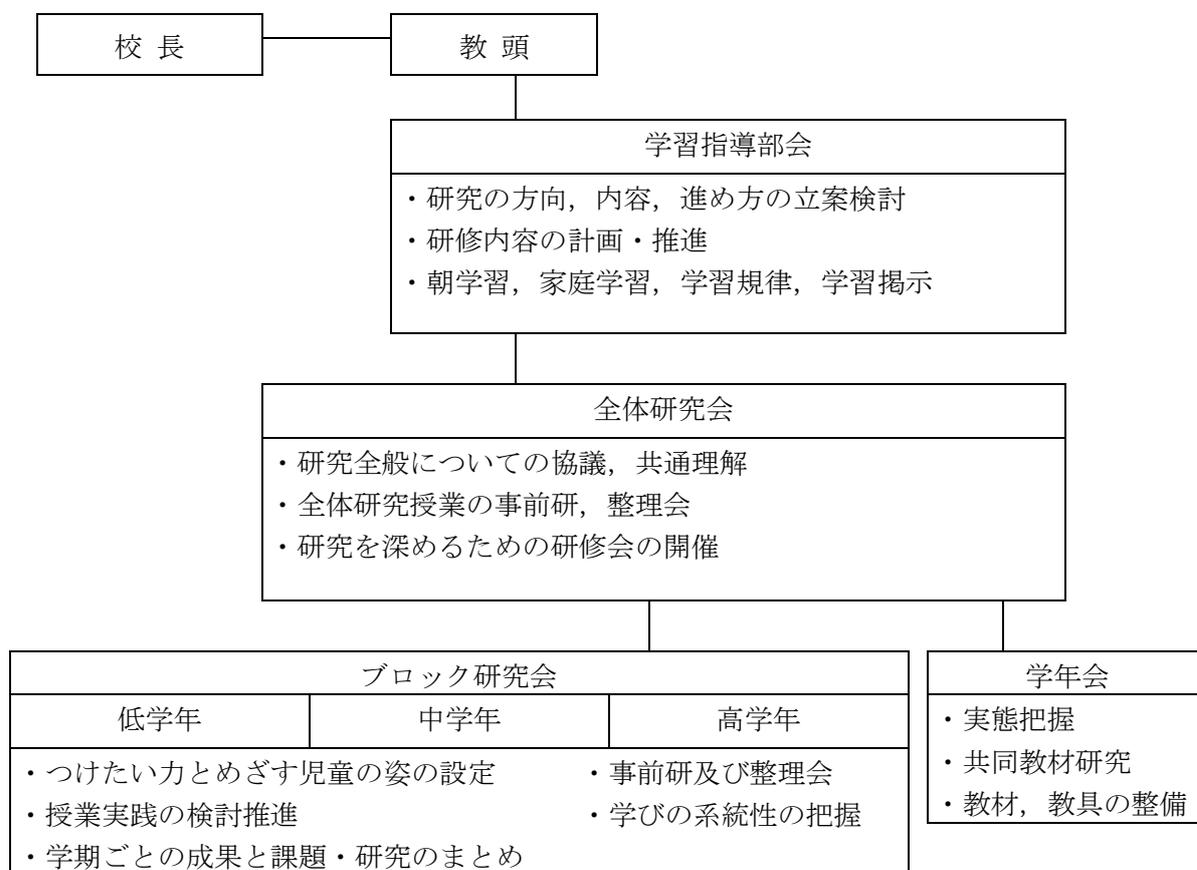
④ 児童の異学年授業参観

児童が異学年の授業を参観し、よりよい学びの姿を知る。

【学習目標年間計画】

| 月 | 学 習 目 標 | 備 考 |
|----|--|---|
| 4 | 「ベル学」をしよう (道具をきちんとそろえ、休み時間のうちに次の時間の準備をしよう) ※物の準備・服装の準備・心の準備を徹底 | 筆記用具 鉛筆 削って4・5本 白いよく消える消しゴム 赤青鉛筆, 名前ペン, 定規 10分休みは準備の時間 |
| 5 | ※チャイムと同時に「自分たちで学びを | 家庭学習がんばり週間 |
| 6 | スタートさせる雰囲気」を高めたい。 | |
| 7 | よい姿勢で、話す人の方を見て聞こう(聞く)自分の考えを伝えよう(話す)ていねいに書こう(書く) | |
| 9 | | |
| 10 | 「学び合い言葉」を使って話そう(話す) | 家庭学習がんばり週間 |
| 11 | ← 反応して聞こう(聞く)自分の考えをわかりやすく書こう(書く) | |
| 12 | | |
| 1 | 自分の思いや考えを、わかりやすく「書こう」 | 家庭学習がんばり週間 |
| 2 | ← めあてをもって、家庭学習に取り組もう | |
| 3 | 1年間をふり返ろう(聞く・話す・書く) | 次年度の学年目標設定 |

(7) 研究組織



(8) 年間計画

| 月 | 主な研究計画 | ブロック研修計画 |
|-----|---|---|
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究の方向・重点等の提案 ・年間計画, 校内研修の確認 ・指導案形式検討 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態, つけたい力 ・めざす児童の姿 ・研究授業計画 |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前研 ・自主学習の推進 (家庭学習がんばり週間) | |
| 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習がんばり週間分析提案 ・提案授業 (高:久禮6-2国) | |
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童・教師アンケートの実施及び集約 ・学力調査及びアンケート結果から今後の指導の重点の共通理解 ・全体研究授業 (中:宮本4-1算) | <ul style="list-style-type: none"> ・1学期の成果と課題, 2学期の手立て (低:小泉2-2音) (中:瀧田4-2社) (高:杉村5-1算) |
| 8 | <ul style="list-style-type: none"> ・1学期の成果と課題及び今後の取り組みの共通理解 | |
| 9 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習環境整備 | |
| 10 | <ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の推進 (家庭学習がんばり週間) | <ul style="list-style-type: none"> (低:天井1-3算) (中:谷口3-1算) (中:庭田3-2算) |
| 11 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習がんばり週間分析提案 ・全体研究授業 (低:幸田1-2算) | <ul style="list-style-type: none"> (低:南谷2-1国) (中:田川3-3国) (高:坂田6-1国) (高:福島5-2国) |
| 12 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童・教師アンケートの実施及び集約 ・2学期の成果と課題及び今後の取り組みの共通理解 ・研究紀要のまとめ方の提案 | <ul style="list-style-type: none"> (低:宮倉1-1国) (中:宮谷 外国語) ・2学期の成果と課題, 3学期の手立て |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の推進 (家庭学習がんばり週間) ・各ブロックの成果と課題のまとめ | <ul style="list-style-type: none"> ・研究の成果と課題のまとめ |
| 2.3 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究の成果と課題共通理解 ・研究の次年度の方向性について | <ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要原稿作成 |